



みどりの里

宇奈月小学校だより

第9号

平成30年9月27日

目指す子供像 うんとかんがえる子 なかよくする子 つよからだの子 きれいなところの子

黒部市立宇奈月小学校 〒938-0862 黒部市宇奈月町浦山205番地1
TEL(0765)65-2288 FAX(0765)65-2800

URL <http://www.tym.ed.jp/sc13/>
E-mail unazuki-es@tym.ed.jp

全国学力・学習状況調査の分析結果より ～・～ 子供たちに確かな学力を ～・～

教務主任 城寺 賢二

今年4月17日に「平成30年度全国学力・学習状況調査」が行われました。この調査は国語科、算数科、そして理科（3年に1回）の「知識」に関するA問題と、「活用」に関するB問題、さらに、生活習慣・学習環境等に関する質問から構成されています。今回の調査結果を基に、本校における児童の学習面と生活面についての成果と課題、そして、今後の取組等についてお知らせいたします。

1 本校の学力の状況について

本校の調査結果は、国語、算数、理科の全国平均と比較し、学習内容がよく身に付いていました。今後とも、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図るとともに、それらを活用して課題を解決していく思考力・表現力・判断力を高めていきたいと考えております。

①国語科について

・「知識」に関するA問題について

漢字の読み書きや日常生活で使われている慣用句、文章を読み取って正しい答えを選ぶなど、各教科の基礎的・基本的な知識・技能は、概ね身に付いていることが分かりました。これは、授業の中で分からない語句を国語辞典で繰り返し調べたり、こつこつノート等で継続的に漢字練習に取り組んだりしてきた成果だと考えられます。一方で、目的に応じて必要な情報を選んだり、事例を挙げながら筋道を立てて話したり、主語と述語の関係を正しく理解して書いたりするところに課題が見られました。

・「活用」に関するB問題について

文章の内容を的確に読んだり、目的に応じて複数の文章を選んで読んだりする読解力が身に付いてきていることが分かりました。また、話し手の意図を捉えながら話を聞き、自分の意見と対比しながら自分の考えを深める力がついていました。これは、日頃の授業の中で話し合いの場面を多く取り入れたり、自分の考えの根拠となる叙述に線を引かせて考えさせたりしてきた成果と考えられます。

一方、自分の考えを書いたり、効果的な文章構成を考えて書いたりする力には課題が見られました。(右の問題)

1 疑問を提示し、読者が興味をもつて読めるようにする。

2 自分が伝えたいことを述べ、読者の理解を助けるため。

3 具体的な事例を多く挙げ、読者に納得してもらうため。

4 自分の経験を述べ、読者の経験と比べて考えをもちょうらう。

「星野さんが『紹介する文章』をどのように書くときに、「おすすめる文章」の最初の部分に、
『おすすめる文章』の「かみかみあえ」をせび、
おしくして、みんなに人気があり、歯の健康を保つことにもつながる『かみかみあえ』をせび、
おうちのメニューの1に加えてください。」

「おすすめる文章」

「かみかみあえ」は、するめが入っている食べ物です。よくかんて食べるから、このように
うなるおすすめる文章。おうちの人は、この「かみかみあえ」を、サラダやあえ物のメニュー
としておすすめています。

するめはかにも、にんじんやきゅうり、しやしんじの野菜が入っていて、栄養バランスが
いい、たまらないおいしいです。

特におすすまない理由は、次の二つです。

一つ目の理由は、「かみかみあえ」が、人気のこんだてであることです。

六年一組で以前作ったアンケートでは、サラダやあえ物のうち、好きこんだての上位三つに
入っていました。六年二組では、「チキマヨサラダ」と同じくらい人気があるこんだてです。また、
ほかの学級でも好きな人が多いと思います。

二つ目の理由は、「かみかみあえ」にむし歯を防ぐ効果があることです。

同じサラダやあえ物の中で人気のこんだての一つである「チキマヨサラダ」と比べると、「か
みかみあえ」の方が、よりむし歯を防ぐ効果があります。「かみかみあえ」は、

2

星野さんは、給食の献立の一つである「かみかみあえ」のよさをとらえて、知ってもらい、各家庭でも
メニューの一つに加えてほしいと述べています。次は、星野さんが以前書いた「かみかみあえ」に
ついての「紹介する文章」を、それをもとにしておうちの大人に向けて書いている「おすすめる文章」
です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【紹介する文章】

「かみかみあえ」は、するめが入って、よ
かんて食べるこんだてです。そのため、このように名
前がついています。

するめはかにも、にんじんやきゅうり、もやしなどの
野菜が入っていて、栄養のバランスがいいので、かん
て食べています。

中華風ドレッシングの味やするめが野菜に
しみこんでいます。

正答：2

・国語科における今後の授業で大切にしていきたいこと

- 漢字の読み書き、語句調べ等の学習を継続して取り組み、確実な定着を図ります。
- 音読を大切にするとともに、読書の習慣化に取り組んでいきます。
- 「文章を視写する」「文章の穴埋めをする」「型に当てはめて書く」等、子供の実態に応じた手立てをとりながら、文章構成を意識して書く力を身に付けさせます。
- 今後も話合いの場面を多く取り入れ、友達の意見と自分の意見を対比・類似して考えることで、自分の考えをさらに深められるようにしていきます。

②算数科について

・「知識」に関するA問題について

基本的な計算や文章を読み取って正しい答えを選ぶなど、基礎的・基本的な知識・技能は、概ね身に付いていることが分かりました。これは、その日に学習した内容を宿題に出して取り組ませたり、朝学習のドリルやプリント等で復習し、記憶の定着を図ったりした成果と考えられます。一方、直径と円周の長さの関係や円周率の意味、百分率(割合)の求め方に関しては、理解が定着していないことが分かりました。今後の学習の中で、復習していく必要があります。

・「活用」に関するB問題について

選択して答える問題や答えのみを書く短答式の正答率が高かった一方で、解き方や答えの根拠を説明する記述式の正答率は低い傾向にありました。領域別に見ると、時間を求める問題やグラフの変化を解釈する問題等の数量関係の学習に課題があることが分かりました。A問題でも数量関係の学習に課題が見られたので、今後の学習の中で数量の感覚を育てるために、図や絵、線分図を使って視覚化を促し、問題解決していく場面を多く取り入れていく必要があります。(右の問題)

小学校 算数 年 組 番 氏名

平成30年度 日③(1)

3 しおりさんたちの学校は、「遠くであいさつをする」と「本をよく読む」の2つのめあてに取り組んでいます。

しおりさんたちは、7月と12月に、2つのめあてについて全校児童625人に対してアンケート調査をし、その結果を下のグラフに表しました。

しおりさんは、グラフからわかることを2つのメモに書きました。

2つのめあてについて「取り組んだ」と「書きた人数」

めあて	7月	12月
「遠くであいさつをする」	約570人	約550人
「本をよく読む」	約50人	約200人

メモ1

- 「遠くであいさつをする」のほうが多いです。
- 約570人
- 「本をよく読む」のほうが多いです。
- 約550人

メモ2

- 「遠くであいさつをする」のほうが多いです。
- 約50人
- 「本をよく読む」のほうが多いです。
- 約200人

えりおさんとまきさんは、しおりさんが書いたメモについて話し合っています。

えりお

メモ1を見ると「遠くであいさつをする」のほうが多いです。でも、メモ2を見ると「本をよく読む」のほうが多いです。

まき

メモ1では、「遠くであいさつをする」のほうが多いですが、メモ2では、「本をよく読む」のほうが多いのは、なぜですか。

しおり

メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについて何が違うかに着目して書いているからです。

しおりさんが言うように、メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについて何が違うかに着目して書かれています。

(1) メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれていますか。それぞれ着目していることを、言葉や数を使って書きましょう。

解答らん

(例)

メモ1は、12月の人数に着目して書かれていて、メモ2は、7月の人数と12月の人数の差に着目して書かれています。

・算数科における今後の授業で大切にしていきたいこと

- 今後も基礎的・基本的な知識・技能スキルを身に付けるために、継続してドリル学習を徹底して行います。
- 単元テストで間違えた問題は、こつこつノート(自主学習ノート)にもう一度解き直し、理解の定着を図ります。
- 「算数の勉強が好きだ」の割合が低いので、日常生活の場面に置き換えて考えられるような問題を提示するなど子供たちが興味・関心をもって問題に取り組めるよう工夫します。
- 数量関係の学習に課題が見られたので、今後の学習の中で数量をイメージ化できるように図や絵、線分図を使ったり、基準量や比較量を正しく把握できるように問題の場面と絵を関連付けて考えたりする場面を多く取り入れていきます。

③理科について

・「知識」「活用」に関する問題について

「知識」「活用」のほとんどの問題がよくできていました。特に、電流や土地の侵食に関する問題等、授業の中で実験した内容の正答率が高いことが分かりました。質問紙調査でも、「理科の学習が好き」「理科の勉強は大切である」「授業の内容がよく分かる」「授業で実験をたくさん行っている」「実験が好き」「自分の予想を基に実験の計画を立てている」と答えている子供が多く、理科の学習に主体的に取り組んできたことが高い正答率に繋がったと考えられます。今後の課題としては、より妥当な考えを導くために、実験結果を根拠に分析し、自分の考えを記述できるようにしていく必要があります。

・理科における今後の授業で大切にしていきたいこと

- 今後も授業でたくさん実験・分析等を行い、子供たちがさらに理科が好きになるように取り組んでいきます。
- これまでの生活経験や既習事項を生かして立てた実験仮説を基に、実験を行って仮説を確かめるなど、子供たちが主体的に学習に取り組めるようにしていきます。
- より妥当な方法や考えを出すために、検証実験を多く取り入れるとともに、仮説や実験結果を根拠に自分の考えを記述できるワークシートの工夫等に取り組んでいきます。

2 児童質問紙の結果について

① 生活習慣・学習環境等に関して

○全国平均と比較して、よいところ

- ・先生は、あなたのよいところを認めてくれている。
- ・学校のきまりを守っている。
- ・毎日、同じ時刻に就寝・起床している。
- ・新聞をよく読んだり、ニュースを見たりしている。
- ・自分で学習の計画を立て、学校の宿題をしている。
- ・解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。
- ・自分の考えを発表する際は、資料や文章、話の組立て等を工夫して発表している。
- ・話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。
- ・解答を文章で書く問題に粘り強く取り組む。
- ・学校の授業時間以外の学習時間（家庭学習、習い事等）が多い。
- ・授業で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会が多い。

○全国平均と比較して、課題と考えられるところ（『当てはまる』が少ない項目）

- ・自分によりよいところがあると思う。
- ・今、学習していることが、将来、社会に出たときに役に立つ。
- ・将来の夢や目標をもっている。
- ・人の役に立つ人間になりたいと思う。
- ・家でテレビ、DVD、ゲーム、インターネットをして過ごすことが多い。（平日、週末ともに）
- ・地域の行事、ボランティア活動に参加している。
- ・地域や社会のためによりよくするために何をすべきか考えることがある。

②考察と今後の課題について

- ・早寝・早起き、朝ごはん等、きちんとした生活習慣が身に付いている子供が多いです。また、授業及び家庭学習に粘り強く取り組むことができ、学校のきまりを守って、落ち着いて生活していることが分かります。今後は、成功体験が味わえる場を多く設定し、自尊感情を高めることで、将来の夢や目標が持てるようにしたいと思います。
- ・新聞を読んだり、ニュースを見たりしている子供が多かったです。全国的にも、新聞を「ほぼ毎日読む」と「読まない」では全ての科目で正答率が高く、特に活用の力を問うB問題では顕著であったという結果が出ています。今後も授業の中で新聞記事を活用したり、読書活動を推進したりし、活字に触れる機会を増やしていきます。
- ・平日、週末ともに、家でテレビ、DVD、ゲーム、インターネットをして過ごすことが多いことが分かりました。最近、新聞やニュースでも「ネット依存」や「ゲーム依存」の健康被害について取り上げられています。そこで、学校では**毎週月曜日の放課後**はゲーム、ネット、テレビ等のメディアを活用する時間を減らし、視力低下の予防と家族との団欒や読書等の余暇活動を推進するために「**ノーゲーム・省メディアデー**」に取り組んでいきます。

【保護者の方々に協力していただきたいこと】

- 好ましい生活習慣が、学力向上と大きく強く結びついています。そこで、4月に配布しました「子供の学ぶ力の向上をめざして」を再度、ご覧になっていただき、できるところから取り組んでください。
※お手元がないようでしたら、ご連絡ください。(再配布します。)

子供の学ぶ力の向上をめざして

〔保護者向けリーフレット〕
墨部市立宇奈月小学校

◎子供の学ぶ力を育てるためには、

まず、一日の生活リズム・生活習慣を大切にしましょう!

① **生活のリズムを整える**
「早寝・早起き」「朝ご飯(主食+おかず)」の生活リズムが大原則!
1・2年生は 9:00 3・6年生は 9:30まで起き、6:30まで起きる。



「平成28年度 学校保健委員会資料より」 富山県教育委員会 保護 伏見 寿良 作図

③ **バランスのよい食事が「子供の学力と体を支える」の基盤で!**
◎ 朝食をきちんと食べて、体と脳を目覚めさせる。
◎ よく噛んで食べることで、脳の働きを活発にする。

② **家族との会話を大切に**
学校や家族の話題で会話ははずみ、笑いが溢れない一家庭みんなで脳の活性化!

④ **当たり前のことが当たり前のできる生活習慣を身に付ける**
◎ 「おはようございます」「ありがとうございます」「ごめんなさい」などの気持ちのよいあいさつができる。
◎ 「はいっ!」と返事ができる。
◎ 家族の一員として、家族のための手伝いをする。
◎ 靴のかかとをふまない、履き物をそろえる。
◎ きまりや約束、時間を守る。
◎ 次の日の準備を自分でする。

⑤ **正しい鉛筆の持ち方を身に付ける**



◎ 初めから、全てに取り組む必要はありません。「まずはできることから」「できる範囲」で始めましょう。

- ネット、ゲームをする時間やテレビ等を視聴する時間について、家で話し合ってルールを決めてください。そして、「家族内のゲームやテレビ視聴のルール」を冷蔵庫等の家族みんなが見える場所に掲示し、毎日家族で確認しながら取り組むのもよいと思います。

今回の全国学力・学習状況調査の結果を分析し、これからの取組の方向性等について書きました。学年に関係なく、「うちの子供はどうなのかな?」と考える機会にしていただければ幸いです。